



『冬の森は魔術師！?』

森では季節や時期ごとに様々な景色が繰り広げられています。どの季節もそうですが、特に冬は見るときにより風景が違います。

冬の森はダイナミックかつ繊細な自然のアートを作り出す魔術師です。一晩で風景を激変させてしまいます。雪原に足跡を出現させ、姿が見えない動物たちの存在を明かします。また「水」を巧みに操り、様々な“顔”を見せてくれます。気温の高低、時間や場所の違いにより、おもしろい造形の世界を作り出します。



自然のアートは一瞬のうちに消えたり変わってしまうものもあります。条件が揃えば同じようなシーンを再び見られるかもしれませんが、全く同じではありません。一期一会の出会いなのです。



冬季限定の素敵な“魔術”を探しながら森を歩いてみませんか？(り)

削り花の思い出

春彼岸。この季節になると思い出すことがある。それは宮城県や山形県の一部でお墓に供える風習のある“削り花”と呼ばれる造花のこと。

削り花は、生花のない季節に迎える春のお彼岸に、少しでも彩を添えようと明治時代に仙台で始まった（と言われる）風習で、主にコシアブラ（ウコギ科）の太い枝を専用の刃物で削ってつくる。



削り花専用刃物

今は時期がくると生花店やスーパーで販売されているが、もともとは自分達の手で削り、ご先祖様に供えていたのだろう。近年、生花が季節を問わず手に入るようになったため、生産数はもとよりつくるのが出来る人自体が少なくなっており、年々飾る人は減っているようだ。

青葉の森では、仙台の気候風土が生み出した“削り花”という風習とその作り手の想いを残していこうと、毎年、彼岸が近づく時期に削り花をつくるイベントを開催してきた。深い雪のなかでも参加者の皆さんは集まってくれたものであった。



しかし、一昨年からこのイベントは開催していない。それは作り手の菱沼仁平（ひしぬまじんぺい）さんが亡くなってしまったからだ。無骨な手で黙々と削り花をつくる仁平さんの深い皺が刻まれた笑顔が思い出される。一見、粗削りにみえるが、仁平さんの手から生み出された削り花は誰のものより繊細で美しかった。

そんな仁平さんは私にとって仙台の森そのものと言っていい方である。カモシカの姿を追い、オオタカの巣を探して一緒に森に分けいったことは数知れず。そんななかでキノコや山菜、サンショウウオの住処からアナグマの肉の味まで、森のあらゆることを教えてもらった。太白山～蕃山周辺なら小さな沢や尾根まで頭に入っており地図なしでどこまでも歩けた。道のない山中を歩くスピードも並大抵ではなく、私はいつもついて行くのがやっとだった。仙台の文化や風物にも詳しく、戦後の仙台の野山がどのように変わっていったのかを実際に見てきた貴重な存在であり、私にとって「森」の先生だった。

今にも木々の間からひょっこり顔を出し「あそこカモシカいだど！」と呼び掛けてきそうな気がする。

そんな人物が仙台からいなくなってしまったことが惜しまれるとともに、人から人へ受け継がれてきた伝統や風習も、こうやって廃れていくのだと感じた。



削り花をつくる菱沼仁平さん（平成 26 年 2 月）

管理センターの倉庫には削り花専用の刃物や仁平さんがこしらえてくれた削る枝を固定するための道具がしまっている。

これまでイベントを再開できなかったのは、仙台の風習が体に染み込んでいない我々スタッフでは仁平さんに教えられた知識や技術を伝えることはできても言葉に“重み”が伴わないと感じていたからだ。

しかし、仁平さんから受け継いだ伝統“削り花”を繋いでいきたい。そんな想いが日増しに強くなり“削り花”を伝えるイベントを再開してみようと思った。

森の恵みに感謝し、仙台に伝えられた手わざを伝え、先祖の墓前に手製の削り花を供えることができる彼岸を迎えるために。（千）

❄️ 雪の結晶をかんさつしてみよう ❄️

雪が降ったらため息はつかないで！せっかくの雪の結晶がとけてしまいますよ。

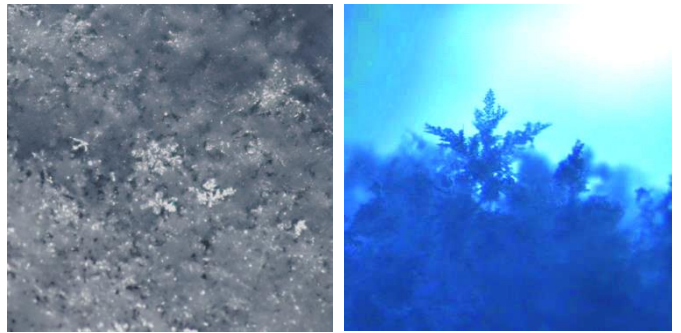


積もったばかりの雪がキラキラ輝いている光景に出会ったことはありませんか？

雪の結晶はスパンコールのように平たい形をしているものが多く、その平らな面が太陽の光を反射させて光っているのです。（六角形の板状以外に針状や角柱など立体的なものもあります。）

雪が降ればいつでも平たい花の形をした結晶が見られるわけではなく、気温が -10°C ～ -20°C の時に複雑な形の結晶に成長するそうです。仙台でそんなに気

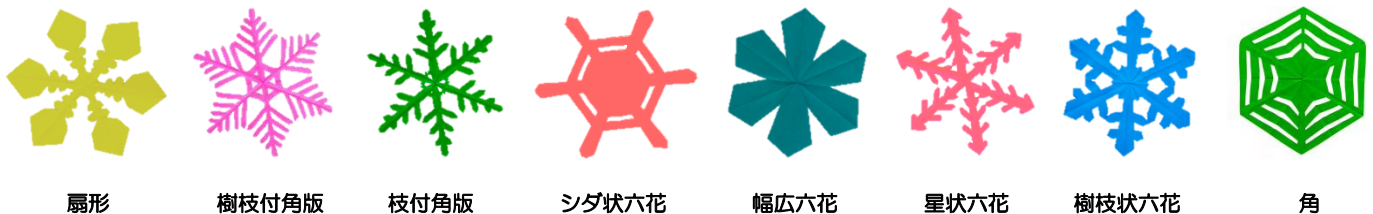
温が下がることはほとんどないじゃない！とお思いでしょう、でも大丈夫！この数字は結晶が形作られる上空の気温。また、 0°C ～ -5°C くらいの時はシンプルな六角形になることが多いのだそうですよ。



(H28/12/11 青葉の森管理センターペランダで撮影)

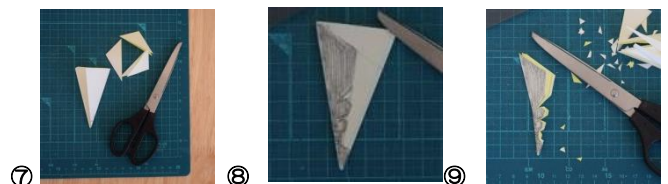
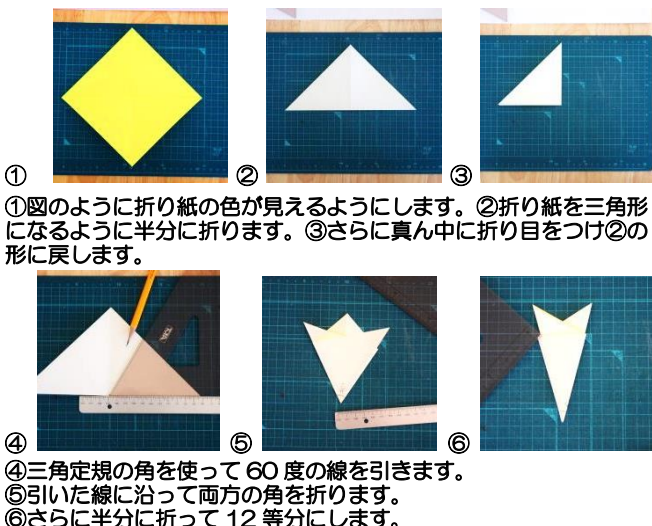
雪の結晶を見つけるポイントは降ったらすぐに探すことに限ります。降っている最中に落ちてきたばかりの雪を観察してみてください。（虫めがねやルーペがあるととっても楽しめます。管理センターではルーペの貸出を行っています。デジタルカメラの接写機能も便利！）

雪のシーズンはこれからが本番！一つとして同じ形になることはない自然の小さな芸術作品を觀賞してみてください。（K）



【紋切り遊びで雪の結晶を作ってみよう】

【用意するもの】 折り紙、画用紙、ハサミ、カッター、三角定規（鋭角 30° 度）または分度器、直線定規、鉛筆、カッターマット



⑦ひらひらしている余分な部分を切り取ります。
⑧図案を描きます（右利きの人は図のように紙が重なっている部分が左側になるようにすると切りやすいです。）

⑨図案を残して切ります（重なっている部分を切り落とさないように注意して！）

⑩あとはそっとひらくだけ！たくさん作ってモビールにしたり、ノートに貼ったり、アルバムのデコレーションに使ってもかわいいですよ！

※青葉の森管理センターに紋切り遊び体験コーナーと作品例を展示しています。青葉の森スタッフブログに詳しい作り方を掲載していますので参考にしてください。

<http://blog.livedoor.jp/skrk2-aobanomori/>



がんばるね（根）

樹木は一度その場所に芽を出すと一生その場所で生きていかなければなりません。芽生えた所が条件の悪い場所であっても、必死に適応しながら生長します。



〔写真1〕

根に握られている大きな石

園内にあるブナの木の写真です(写真1)。芽生えた場所が残念なことに大きな石の上でした。しかし、負けずに石を抱きかかえ生長した結果がこのような根の形になりました。抱きかかえるだけでなく、石の上から土の中まで太く、長く根を伸ばしています。がんばる根の根性を見ることができま

す。このブナを私は「にぎりブナ」と名づけています。大きな石と根のがんばり・・・といえば「石割桜」が一般に知られていますが、ここ青葉の森には「にぎりブナ」と呼ぶ隠れ名所がありますのでぜひ見に来てください。

根は自分が生きるためブナの根のように環境に適応する力を持っています。障害物でうまく根が張れない場合は、太く、そして長くなりながら生長してくので、園内のヒノキ林で見られる根の写真です(写真2)。

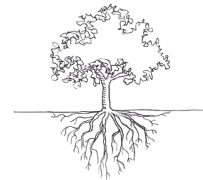


〔写真2〕

尾根の固い地盤のため、根が地中にもぐることができず、地表にむき出しになったまま横に伸びています。そのためとても太く、長く伸ばして幹を支えています。散策路にあるため常に人に踏まれダメージを受けていますが、そんな状況にも負けずに足元をしっかりと固めている姿に力強さを感じることができます。冬の森を散策するときにはぜひ足元にも目を向けてみてはいかがでしょうか。(あ)



イベントのお知らせ



| | 日時 | 内容 | 対象・定員 | 申込み |
|-------------------|-----------------------|------------------------------------|---------------------|---------------------|
| ◇子どもは風の子！ 外あそび | 1月29日(日) 午前10時～正午 | 冬の自然観察と外遊びを楽しみます。元気に体を動かし寒さを吹き飛ばそう | 小学生以上の子供と保護者15名(先着) | 1月6日(金) 午前9時から電話 |
| ◇森の楽しみ方「冬の青葉の森探検」 | 2月5日(日) 午前10時～正午 | 冬ならではの自然の素材に注目して楽しむネイチャーゲームや森の中の散策 | 小学生以上の子供と保護者15名(先着) | 1月7日(土) 午前9時から電話 |
| ◇「削り花」を作る | 2月26日(日) 午前10時～14時 | 仙台伝統の春彼岸のお供え花「削り花」作りを体験します | 市民10名(先着) | 2月7日(火) 午前9時から電話 |
| ◇大人の森あるき | 3月5日(日) 午前9時～12時 | 早春の森歩き。五感を使って春の訪れを青葉の森で体感します | 市民15名(先着) | 2月8日(水) 午前9時から電話 |
| ◇クラフト展 | 3月11日～3月31日 日まで | これまでのイベントで作成したクラフト、写真、オブジェなどの作品を展示 | どなたでも | 直接会場へ |

※イベントの詳細や申込み日など変更になる場合がございます。必ず毎月発行の「市政だより」をご覧の上申し込みしてください。

情報誌 季刊「青葉の森から」第43号 2017年1月5日発行
発行：(公財)仙台市公園緑地協会/編集：青葉の森管理センター

青葉の森管理センター

開館時間/午前9時～午後4時30分 休館日/月曜・年末年始

〒980-0845 青葉区荒巻字青葉 260

TEL:022-263-2101 FAX:022-263-2102

地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩15分

<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.html>

